

3 スペイン内乱

114 昭和11年8月1日 在スペイン矢野(真)公使より
有田外務大臣宛(電報)

スペインにおける内乱の現況および関係諸国の対応振りにつき叛乱軍消息通よりの情報について

サンセバステイアン 8月1日後発
本 省 8月2日後着

第七三號

往電第(脱)號ニ關シ

叛軍側消息通ノ情報

「今回叛亂ハ陸軍ヲ中心トシ警察隊ノ一部、國粹黨、其ノ他右翼並ニ王黨分子荷擔シ居レルカ右ハ近時西班牙ニ瀰蔓セル社會主義、共產主義又ハ「サンジカリズム」等ノ左翼勢力ノ打倒、強力政府ノ樹立、共和制ノ破壊、王制ノ復活ヲ企圖スルモノニアラス

ニ政府側ハ去ル二月總選舉ニ際シ結成セル大衆戰線左翼分子ヲ武裝シ政府側軍隊及警察隊ヲ援ケシメ居リ特ニ共產

六、主ナル叛軍首領

「フランコ」「カナリア」軍司令官、前參謀長)

「ケイボデル、リアーノ」「セヴィリア」軍司令官、前國境警察隊司令官)

「カバニリアス」「サラゴサ」軍司令官、前警察隊司令官)

「モーラ」「パンプローナ」軍司令官、元警視總監)

佛ニ轉電シ土ヲ除ク在歐各大使ニ暗送セリ

編注 「樹立」の後に「ヲ目的トスルモノニシテ」と書込みあり。

115 昭和11年8月3日 在仏国佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

在スペイン公使の仏国方面への避難およびマドリード残留中の公使館員退去方法考慮につき意見具申

パリ 8月3日後発
本省 8月4日前着

黨及「サンジカリズム」ノ活動目覺敷キ處萬一叛軍不成

功ノ場合ニハ極左ノ勢力急増シ政情ハ益々惡化スヘシ

三、政府側ハ叛亂ノ鎮壓近キヤニ報スルモ叛軍ハ現在馬德里附近及東部並ニ北部海岸ノ一部ヲ除ク大部分ノ地方(西方國境地帶ヲ含ム)ニ勢力ヲ振ヒ政府側カ直接聯絡シ得ル外港ハ「バレンシア」ノミ「ブルゴス」方面叛軍ノ前衛ハ馬德里ノ北方山脈ヲ越エ數十軒ノ地點ニ進出シ「セヴィリア」ノ叛軍亦北上ノ氣勢ヲ示シ居ル處叛軍ハ急遽馬德里ノ武力攻略ヲ避ケ徐々ニ現政權ヲ壓迫シ之カ自然的倒崩ヲ待ツノ策ニ出テ居レリ

四、海軍ハ目下大部分政府ヲ支持シ居ル處將校中ニハ叛軍同情者鮮カラサルモ部下ノ兵卒ヨリ強制的ニ政府側ニ加擔セシメラレ居レリ

五、從來蘇聯邦ハ政府側左翼團體ニ多大ノ支援ヲ爲シ居レルカ今回ノ事變ニ對シ葡國、伊國、獨逸ハ叛軍側ニ同情ヲ示シ現ニ葡、獨内放送ハ頻リニ叛軍ニ有利ノ報道ヲ爲シ居ル旨政府側機關紙モ指摘シ居リ英國ハ中立、佛國ハ國境警備ヲ嚴重ニシテ政府側ニ同情ヲ示スモノノ如シ(以上極秘取扱)

第三七九號

西班牙ノ形勢混沌トシテ歸趨未タ豫斷ヲ許ササルモノアレト新聞報道ニ依レハ叛軍ハ再ヒ「サン、セバステイアン」方面ニ進出セルモノノ如ク同地混亂ニ陥ル惧アリ外交團ハ殆ト全部佛國境方面又ハ佛國內へ避難セル模様ナル處矢野公使一行モ同地ニ留マリテハ身邊ノ安全ヲ保障シ難ク且同地ニテハ形勢ヲ「フオーロー」スルコトモ不可能ナルヘケレハ速ニ佛國側へ避難方訓令アリ然ルヘキヤニ存ス

馬德里ニハ外交團今尙殘留シ居ル模様ニ付我公使館員モ外交團ト行動ヲ共ニスル外ナカルヘキモ形勢急變ノ場合避難方法考慮シ置カルル必要アルヘシト思考ス

「サン、セバステイアン」及馬德里ニ轉電セリ

116 昭和11年8月5日 有田外務大臣より
在スペイン矢野公使、在スペイン高岡(禎一郎)公使館二等書記官、在仏国佐藤大使宛(電報)

在スペイン公使の仏国方面への避難およびマドリード残留公使館員の引揚方訓令

合第六一八號(至急)

本省 8月5日後6時30分発

佛發本大臣宛電報第三七九號ニ關シ

在「サンセバスチヤン」矢野公使及館員ハ適宜佛國國境地
方ニ避難セラレタク在「マドリッド」館員モ外交團ト行動
ヲ共ニシ適宜措置セラレ度ク引揚前又ハ必要ノ場合ニハ在
留邦人ハ避難セシムル様西班牙政府及必要ノ向ト接衝善處
セラレタシ

本電宛先「サンセバスチヤン」「マドリッド」及在佛大使
本電爲念佛ヨリ「サンセバスチヤン」「マドリッド」へ轉
電アリタシ

117 昭和11年8月7日

有田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛(電報)

在スペイン公使館における叛乱関与スペイン
人の庇護は一切避けるべき旨訓令

本省 8月7日午後4時35分発

第一七九號(至急)

本大臣ノ訓令トシテ西ニ轉電アリタシ

西發號外第一九號ニ關シ

帝國公使館ニ於テ叛亂關係西班牙人ヲ庇護シ居ラサル限り

民避難ノ道アラハ早キニ及ンテ避難セシメラレタシ
「サンセバスチヤン」ニ轉電アリタシ

119 昭和11年8月15日

在スペイン矢野公使より
有田外務大臣宛

サンセバスティアン方面の戦況に鑑み仏
国方面へ一時避難につき報告

機密号外一

(9月7日接受)

昭和十一年八月十五日

在西

特命全權公使 矢野 真

外務大臣 有田 八郎殿

西國動乱ニ際シ一時佛國側ニ避難ニ関スル件

今次西國動乱ニ際シ「サン・セバスチアン」方面ニ於ケル
事情ニ関シテハ屢次電報ヲ以テ報告シ置ケル通りナルガ本
使一行八月十三日同市ヨリ佛國側「サン・ヂヤン・ド・ル
ューズ」(San Jean de Luz)ニ避難ノ經緯左ノ通り報告申
進ス

「本使(高田通訳官横田書記生隨伴)七月十六日恒例ニ依リ

(矢野公使發本大臣宛第七四號)國際法上ノ問題ハ起ラサル
モノト認メラルル處萬一庇護シ居ルモノアル場合西班牙政
府側ヨリ引渡ノ要求アラハ之ヲ拒絶スルヲ得サル次第ナル
ニ付外交團中庇護ノ事實アリトスルモ貴官ハ此際一方ニ偏
スル行動ハ一切避クル様致度
「サンセバスチアン」ニ轉電アリタシ

118 昭和11年8月10日

有田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛(電報)

民兵等による在スペイン公使館強制捜査は致し
方なく強いてこれを拒否する必要なき旨訓令

本省 8月10日午後5時40分発

第一八四號(至急)

西發號外第二五號ニ關シ

本大臣ノ訓令トシテ西ニ轉電アリタシ

本件ノ場合貴方ヨリ篤ト説明ノ上拒絶セラルヘキモ民兵等
カ之ニ聽從セス強力ヲ以テ公使館ノ搜查ヲナスカ如キ場合
ハ致方ナク依テ強力ヲ以テ之ヲ拒否スルノ必要ナシ就テハ
豫メ御眞影機密書類ノ處分等ニ付留意シ置カレ度ク又在留

「サン・セバスチアン」市ニ移轉、十八日同市ニ「モロ
ツコ」駐屯軍叛乱ノ報傳ハリタル処十九日早朝「サン・
セバスチアン」駐屯軍司令部附近ニテ一團ノ民衆ト軍隊
間ニ衝突アリ市中ノ交通杜絶「マドリッド」トノ長距離
電話不通トナリ他地方トノ交通又遮断セラレタルガ縣政
府ハ急遽勞働者階級ヲ動員シテ武器ヲ與ヘ市内外ノ警備
反動分子ノ彈圧ニ當ラシメ各方面ノ形勢頗ル險惡トナレ
リ、二十日頃ヨリ軍隊(砲兵及工兵各一箇聯隊)愈々叛乱
ノ氣勢ヲ示シ警察隊ノ一部及右翼分子之ニ呼應シ市内枢
要地点ヲ占ムル陸軍司令部「ヨット・クラブ」「カシノ」
「ホテル・マリア・クリスチナ」(市中第一ノ旅館)及「ロ
ヨラ」兵舎(郊外ニ在リ)等ニ據リ彼等ト政府側「フレン
テ・ポプラル」分子(註一)及「バスコ」國民黨(註二)ト
ノ間ニ約一週日ニ亘リ激烈ナル交戦行ハレ縣政府ハ一時
「エイバル」方面ニ逃レタルガ同地及「ビルバオ」方面
ヨリノ來援ヲ得又政府側軍艦來航砲撃ヲ加ヘタル為二十
七日頃迄ニ叛軍追々投降シ政府側ハ一先ス「サン・セバ
スチアン」市ヲ奪回スルコトヲ得タリ

(註一)El Frente Popularハ本年二月十六日施行セラレ

タル議會總選舉ニ際シ結成セラレタル左翼共和派（現在ノ政府ヲ組織ス）及社會黨並共產黨「サンヂカリスト」（無政府主義「サンヂカリスト」ヲ含ム）其ノ他ノ極左團體ノ連繫ナリ

（註一）Nacionalista Vasco ハ「バスコ」地方ノ自治分権獲得ヲ目的トスル保守「カトリック」派團體ナル処右翼派ガ地方分権ニ不賛成ヲ標榜スル關係モアリ同團體ハ元來保守の傾向ヲ有スルニ拘ハラス今回事件ニ際シ社會黨等ノ左翼ニ加担セリ今回右翼派叛軍ノ二大連算ハ海軍ノ大部分及「バスコ」國民黨ガ政府側ニ加担セルコトナリト云フ

ニ事件勃發後「サン・セバスチアン」「フレンテ・ポブラル」分子ハ軍事、食料補給、運輸、通信、治安、財務ノ六分會ヨリ成ル大衆戰線防衛委員會ヲ組織シ軍事並一切ノ行政ニ當リ右委員會ニ於テハ「サンヂカリスト」（無政府主義「サンヂカリスト」多シ）及共產黨ノ極左分子軍事其他大部分ノ分會ヲ牛耳リ最モ顯著ナル活動ヲ為シツ、アリ

三「サン・セバスチアン」ノ叛軍投降後「ヴィトリア」及

事故ナカリキ

五「サン・セバスチアン」市ニ於ケル物資ハ日増ニ缺乏ヲ告ゲ大衆委員會ハ各商店ノ在庫品ヲ徵發シテ食料品及被服等ヲ戰線ニ供給スル外一般市民ニ對シテモ生活必需品ノ配給ヲ行ヘルガ之トテモ数日ニシテ不可能トナリ今ヤ個人ノ貯藏品ヲモ徵發スルニ至リ食料品ノ買入制限セラレ米砂糖牛乳野菜果物卵等殆ンド入手シ得ザルニ至レリ又水道ノ水源地叛軍ノ手ニ歸シタル為市中殆ンド断水状態トナリ一日三回ニ限り街頭ノ水道栓ヲ開ケ給水シ居ル有様ニテ低地ニ在リタル為比較的永持チシタル本使住宅ニテモ十三日午前九時以後一滴ノ水モ来ラス斯クシテ飲料水及賄用水ニ事缺クハ勿論衛生用水缺乏ノ為市内ノ衛生状態不良トナリ疫病發生ノ惧アル処戰線其他ヨリ送還ノ傷病兵收容ノ為病院不足シ數箇所「ホテル」其他ノ建物ニ急造シタル假病院モ亦滿員ニシテ是等手當ノ為醫師ノ總動員ヲ行ヒ居ル状態ナルヲ以テ萬一疫病ノ發生ヲ見ンカ其ノ結果寒心ニ堪ヘサルモノアルヘシ

又「サン・セバスチアン」市電燈ノ發電所亦叛軍ノ勢力地域内ニ在ル為目下政府側占據地域内ニ在ル補助發電所

「パンプローナ」ヲ本據トスル叛軍ハ同市再攻撃ヲ企畫シ「ナヴァアラ」方面ノ叛軍前衛ヲシテ郊外ノ山岳地帯ニ占據「サン・セバスチアン」ヲ半円形ニ包圍セシメ居ル処其ノ一隊ハ既ニ同市ヲ距ル近々二十數基ノ「トロサ」（Tolosa）ヲ占領シ他ノ一隊ハ佛國境方面ヘノ街道筋附近一帶ニ進出シ来リ政府側ハ其ノ防衛ニ苦心シ居ル処戰局ハ日増ニ政府側ニ不利ナルヤノ趣ニシテ「サン・セバスチアン」市延ヒテ國境方面一帶ノ陷落ハ既ニ時日ノ間題ト觀測スル者多シ

四、一般情勢上述ノ如クナル上「サン・セバスチアン」市ニ於テハ連日叛軍飛行機ノ來襲ヲ受ケ居リ十三日ノ朝ノ如キハ六台ノ叛軍飛行機翼ヲ連ネテ來襲市内要所ニ爆彈ヲ投下シ地上ヨリ盛ニ之ニ應撃セリ而シテ叛軍側ノ砲撃及飛行機ヨリノ爆撃ノ主タル目標ノ一ハ「サン・セバスチアン」ラヂオ放送局ナル処本使及館員住宅ハ同放送局ニ近キ為交戰中頻々トシテ砲彈飛來シ爆彈炸裂シ大ナル危險ニ曝サレタリ尚事件以來本使住宅附近ノ往來ニテ政府側ト所謂反動分子トノ間ニ屢々撃チ合ヒアリ銃彈本使應接間寢室等ニモ飛來セルカ幸ニシテ館員其他ニ何等

ニヨリ辛フシテ市内ノ配電ヲ為シ居ル処之カ為電力ノ使用極度ニ制限セラレ市民ノ不便大ナルハ云フ迄モナシ

六、萬一叛軍優勢ニシテ政府側カ「サン・セバスチアン」ヨリ敗退スル場合一時市内混亂状態ニ陥リ不良分子横行スルカ如キ場合一般市民ニ不測ノ損害ヲ蒙ラシムルノ惧アリヤニモ觀取セラル

七、上述ノ次第ナルニ依リ本使ハ適當ノ機會ヲ見計ラヒ一應「サン・セバスチアン」市ヲ去ルコトノ必要ヲ認メタルガ右ニ付「サン・セバスチアン」市ノ西方「ビルバオ」方面ヘノ交通ハ未ダ可能ニシテ同方面ヘノ移轉ニハ差シタル困難ナキ模様ナルモ同方面「サラウス」ニ在リタル亞國大使館ノ如キハ右翼派西國人ニ逃ケ込マレタル結果反對分子ヨリ侵入ヲ受ケタル事件アリ反テ危險ナルニ依リ御訓令ノ次第モアリ此際佛國境附近ニ避難スルコト最モ適切且安全ナルヲ認メタル処前述ノ如ク佛國境方面ニ通スル街道筋ニモ叛軍出沒シ同方面一帶交戰区域トナリ居リ必スシモ交通ノ安全ヲ期シ得ザルモ幸目下間道ニ依リ交通可能ナルヘキコトヲ探知シ得タルカ此ノ間道モ何時迄通行シ得ルヤ不明ニテ此ノ機ニ於テ避難セサレバ或

ハ今後「サン・セバスチアン」市ヨリノ脱出困難トナルノ惧アリタルヲ以テ各方面ト交渉ノ結果出来得ル限り安全ノ保證ヲ得前記大衆委員會ヨリ貨物自動車壹臺ヲ借り受ケ既電ノ通り本使一行十三名八月十三日無事「サン・ジアン・ド・ルューズ」ニ避難スルコトヲ得タリ

ハ當市ハ西佛國境ヨリ十基米余ノ地点ニ在リ避難外交團ノ大部分ハ當市及其ノ附近ニ移轉シ居リ西國側情報ノ入手ニモ比較的容易ニシテ萬事都合ナルカ目下夏季ノ最盛時ナルノミナラズ西國側ヨリノ避難者モ雜踏シ「ホテル」等滿員ノ有様ニテ適當家屋ノ發見ニ困難ナリシガ不取敢格安ノ五階建家屋ノ三階「フラット」及別ニ一軒ヲ借り受ケ前者ニ本使及事務所後者ニ隨伴ノ館員二名及其ノ家族一先ツ落着クコト、セリ

尚本使及館員(男)ハ可成早目ニ馬德里ニ歸還ノ豫定ニテ目下旅行ノ能否經路其他取調中ナリ

六 尚今夏「サン・セバスチアン」市及其ノ附近ニ移轉シタル外交團(英、米、佛、伊、独、亜、白、墨、蘭、瑞典、諾威、芬蘭等)ハ事件勃發ト共ニ逸速ク佛國境其他ニ避難シタルモ本使住宅ノミハ市ノ中心ヲ西ニ離レタル区域

主義ヲ承認セシメントシ去一日附書面ヲ以テ先ツ英、伊兩國ニ申込ミ以テ獨、蘇、葡等ノ各國ニ對シ右趣旨申入レタル處英國ヨリハ十五日贊同ノ旨回答アリ獨逸ハ十七日回答ヲ寄セ主義上贊成ト共ニ目下西國政府軍ニ依リ抑留セラレアル獨逸飛行機ノ返還及歐洲兵器製造國ノ全部カ佛國提議ニ贊同スルコトノ條件ヲ附セリ之ヨリ先佛國ハ最初通牒ヲ發シタル前記各國ノ外歐洲諸國全部ニ不干渉協定案ヲ提示シ既ニ伊國ヲ除ク外大體回答出揃ヒタリ尙佛國ハ事件當時ヨリ兵器ノ西國輸入ノ外義勇兵、釀金等ヲモ取締リ來リ唯西班牙政府ノ命令ニ依リ佛國內西班牙人カ召集ニ應シ歸國スル者丈ケハ之ヲ禁止スルヲ得サリシ次第ナリト述ヘ西國內情勢ニ關シテハ政府軍、叛軍ノ孰レモ比較的少人數ヲ以テ相對抗スルニ過キサレハ事件ハ相當引クモノト觀ラル在馬德里佛國大使館ハ一等書記官代理シ居ル處昨今ノ情勢ニ於テ急速ニ引揚ヲ命スル様ノコトハ未タ考ヘ居ラス云々ト述ヘタリ

英、獨、伊、葡ヘ暗送セリ

内ニ在リ市内交戰中本使住宅区域ハ政府側之ヲ占據シ叛軍ノ立籠レル市中トノ交通完全ニ遮斷セラレ電話モ通セス市ノ中心ニアル西國外務省出張所其ノ他ト何等通信ノ途ナク又假ニ通信可能ナリシトスルモ途中ノ危險ハ云フ計リナリ寧口此際ハ自重シ適當ノ時機ヲ待ツノ外ナキモノト認メ結局本使ノミ最後迄殘留スルコト、ナレル次第ナリ

120

昭和11年8月20日

在仏國佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

仏國が欧州關係諸國に對シスペイン内乱への
不干渉を提案した旨同国外務省政務通商局長
説明について

パリ 8月20日後発

本省 8月21日前着

第四一五號

貴電第一九一號ニ關シ

十九日佛國外務省政務通商局長ノ談ニ依レハ過般來佛國政府ハ西班牙内亂不擴大ノ目的ヲ以テ關係各國ヲシテ不干渉

121

昭和11年8月25日

東条(英機)関東局警務部長より
堀内(謙介)外務次官他宛

スペイン内乱に対する白系露人をはじめとす
る在滿州諸外国人の反応について

關機高外第三三三六號

(9月1日接受)

昭和十一年八月二十五日

關東局警務部長

秘

對滿事務局次長殿
外務次官殿
内務省警保局長殿
大使館警務部長殿
指定廳府縣長官殿
關東軍參謀長殿
關東憲兵隊司令官殿
駐滿海軍部參謀長殿
關東州廳警察部長殿
民政部警務司長殿

スペイン革命ニ對スル在滿白系露人等ノ動向ニ關スル件

今次勃發セルスペイン革命ニ關シ亡命白露人ハ勿論其他ノ外國人モ異常ノ關心ヲ持シ之カ推移ヲ注視シツツアリ在哈白露人間ニ於テハ革命右翼團ヲ援護スヘシトノ輿論抬頭シ在滿白露人ニ檄ヲ飛シ或ハ義捐金ヲ募集スル等漸ク活潑ナル活動ヲ爲シツツアリ

一方在滿蘇聯機關ハ之亦本國政府ノ指令ノ下ニ人民戰線擁護ノ爲メ之ト對抗ノ形ニ在リ

之等動向ニ關シ當局ニ於テ得タル情報左記御參考迄

一在哈白露人ノスペイン革命義捐金募集

在哈白系露人ハスペイン暴動ヲ誘發セシ在西班牙外人部隊白系露人(右翼派)ノ左翼派トノ猛闘ニ對シ財政的援助ヲ爲スヘク同志ノ奮起ヲ促シ元白系露人將校ベケトフ發起人トナリハルビン スコエ ウレミヤ新聞社ノ後援ニテ本月十日ヨリ最低一圓以上ノ義捐金募集ヲ開始シ其ノ結果ハ非常ニ成功ヲ納メツツアリ募集金ハ在哈某外國領事館ノ手ヲ經テ西班牙右翼黨ニ送附スルモノナリト云フカ本問題ニ付キテハ在滿白系露人ニ檄ヲ飛ハシ奮起ヲ促

惟フニ最近各國間ニ於テ民族意識ノ高調民族の利害ヘノ關心ノ旺盛化ニ依リ主義ヘノ關心稀薄化シ促^促テ赤色戰線援助モ又龍頭蛇尾ニ終ルヤノ傾向看取セラレ西班牙内亂ハ永續性ニ乏シキモノト思ハル

(二)在哈英國領事館秘書ウイilsonノ言動

西班牙動亂カ何時終末ヲ告クルヤハ豫斷ヲ許ササル處ニシテ西歐諸國カ該内亂ノ性質上不知不識ノ間ニ歐洲全般ニ波及センコトヲ極度ニ憂慮シアルモノノ如ク該内亂カ國際的性質ヲ有スルカ故ニ外部ヨリ如何ナル秘密工作モ許容シ得サルモノナリ例ヘハソ聯ハ西班牙ト接續ノ地位ニアル佛ヲ通シ西班牙ニ於ケル赤色運動ノ發達援助ニ出テントシタルヲ以テ共同戰線ヲ張ル獨伊兩國ハ港灣ニ戰艦ヲ廻航シ公然タル内亂干涉ヲ嚴ニ監視シ居ルノミナラス佛ノ秘密政府軍支援行動ニ對立シ西班牙革命軍ニ飛行機ヲ送派シアアルナリ

惟フニ西班牙動亂ハ西班牙國民ニ依リテ解決セラルルナラン何國ト雖國ヲ賭シテ西班牙内亂ノ何レニカ加擔スルノ愚ヲ採ラサルヘシ

這ハ列強間ノ對立衝突ヲ招來スルカ故ナリ斯ル見地ヨ

スモノノ如シ

ニ、スペイン革命ニ對スル在哈有力外人ノ言動

(一)在哈獨逸領事ノ言動

西班牙ニ勃發シタル内亂ハ單ナル内亂ニ止マラス西歐ノ天地ヲシテ第二ノ世界戰ノ渦中ニ投セシメントスル危機性ヲ多分ニ包藏セリ已ニ佛國政府ハ蘇聯ト氣脈ヲ通シ暗ニ武器ノ密輸ヲナス外革命勃發ノ頭書^{當初}西班牙ヨリ佛國ニ逃亡避難セル住民ニ對シ赤色戰線擁護ノ必要ヲ鼓吹注入シテ送還スル等凡有西班牙ポリシエヴィク援助ニ狂奔シツツアルハ佛國カ内亂不干渉提案ニ奔走シツツアル反面ヲ物語ル興味アル現象ナリ

佛伊兩國ハ他列強ノ行動ヲ嚴重監視スルノ目的ヲ以テ各港灣ニ自己ノ軍艦ヲ碇泊セシメ港灣ヲ經テ赤色スペイン援助者ノ武器並ニ物質供給等政府軍支援狀況ヲ注視シツツアル現況ニアリ從テ他列強ニシテ公然西班牙赤色援助ニ出テンカ左右兩派ノ一大分裂ヲ惹起シ歐洲ノ天地ハ戰爭ノ危險性ニ曝サルルハ自明ノ理ナリ

獨逸ハ今次ノ内亂ニ關スル限り嚴正中立ヲ標榜シテ伊國ト共ニ動亂ノ推移ヲ嚴重監視シ居ル處ナリ

リシテ英國ハ中立ヲ嚴守シ居ルナリ

西班牙動亂ハ赤軍ノ敗北ニ終リ延テ西班牙赤色運動ト緊密ナル關係ヲ有スル佛國プリエム内閣ノ崩壞トナラン斯クテ佛ソノ關係ハ一變シ佛ハソヲ離レ獨佛親善ニ迄展開スルナラン

三、スペイン革命ニ對スル在奉有力外人ノ言動

(一)駐奉英國副領事ブルーイスノ言動

スペイン内亂ハフランスノ提議セルスペイン内亂不干渉協約ヲ關係各國カ承認スル事ニ依リ同伴モ國內の事件トシテ終熄スルナランモ歐洲政局ノ多端ナル折柄不干渉協約ニ對スル附帶條件カ相當微妙ニ時局ノ推移ヲ左右スヘキモノト思料セラル歐洲カファツシヨトコンミンニスムトノ兩極端ニ二分セラレツツアル事實ハ否定シ得サルモ恐ラク英國ハスペイン内亂問題ニ關スル限りソ聯トノ關係上現在以上積極的態度ヲ以テ事件ノ擴大ヲ招致スルカ如キ愚ハナササルモノト思考ス

(二)駐奉米國代理總領事ロンドンノ言動

歐洲政局ノ微妙サハ極東人ノ殆ト想像外ニアリ這般ノスペイン内亂ハ日本ノ二・二六事件ノ如ク純然タル國

内的ノモノニハ非シテ列強ヲ背景トスル事件ナレハ此處ニ強力ナル不干渉プロツクヲ形成セラレサル限り歐洲ノ危機ハ再ヒ目捷ニアリト稱スルモ敢テ過言ニ非ス最近弱小國ヲ中心ニ列強相互牽制ハ大ニ興味アル趨移ヲ展開スルモノト思料セラル

(三) 駐奉獨逸領事ローゼンノ言動

今回ノスペイン内亂問題ニ關シテハ公私見共述フル事ヲ避ケ度亦事實ニ於テ新聞發表ノ程度ノモノト思料セラル云々ト稱シ口ヲ緘シテ多クヲ語ラス

(四) 白系露人事務局長ノ言動

目下スペイン革命軍ニ參加シアル白系露人ハ相當多數ニ上リ主義ノ爲ノ聖戰ニシテ余ハ衷心ヨリ革命軍ノ成功ヲ祈ルト共ニ進テ對蘇膺懲手段ニ出テン事ヲ希望ス

(五) 在奉蘇聯人クリニーエツノ言動

該事件ノ新聞報道ハ余リニモ針小棒大ニシテ信據シ難ク殊ニ本件ノ背後ニハソ聯邦アリ等ノ記載ハ爲ニスル一部反ソ分子ノ宣傳ニ非サト思料セラル

四、在奉白系露人ノスペイン革命軍後援義捐金募集企圖

奉天白系露人間ニ於テモ哈市方面ト極秘ニ連絡ヲトリ革

ヲ推知シ居ル程度ニシテ何等具體的運動等ヲ見ス

六、スペイン人民戰線擁護資金應募狀況ト題スル哈府ラジオノ放送

(一) スペイン人民戰線擁護金募集額ハ既ニ一千二百十四萬五千留ニ達シソ聯財務委員長シウエルニークハ該金額ヲ國立銀行ニ持參シスペイン人民政府ノ管理下ニ置クヘク手續ヲ了セリ

(二) スペイン動亂ハ大ソヴエート國全勤勞大衆ノ注視シツツアル處ニシテ全般的ニ謳歌稱讚ノ嵐ヲ浴ヒ勤勞大衆ノ集會ニ於テハ伊獨兩國ノフアシストノ革命援助不當カ非難セラレスペイン國民ノ敵ナリト謂ハレツツアリ

(三) 赤旗工場勞働者ハスペイン民戰士ノタメ月俸ノ〇、五%控除スルコトニ決定シキエフ工場ボリシエヴィークニ於テ僅カ晝ノ休憩時間中ニ三廠ノミニテ一千圓以上ノ援助カ集マレリ

(四) レヌーゾノ集會ニ於テスタハノフ主義者鐵工カルベンコハスペイン國民ノ事業ハ我々同胞ノ事業ナリト喝破セリ我々カ精神的物質的援助ハスペイン國民ノ戰闘ニ新勢力ヲ添ヘルモノナリ

命軍援助熱昂騰シツツアリ若シ當局ノ許可アレハ一人殘ラス義捐金募集ニ應スル氣勢ヲ示シ居リ白系露人事務局ニ於テモ慎重ナル態度ヲ持シ白系露人ノ輕舉ヲ抑ヘ居ルカ在奉露人中ニハ極秘ニ哈市方面ニ義捐金ヲ送附スルモノアルヤノ聞込モアリ

五、大連在住白系露人ノ動向

スペイン革命ニ對スル在連白系露人ノ言動ヲ綜合スルニ祖國ヲ左翼派ニ奪ハレタル我々ハ今次ノスペイン革命ハ最モ關心ヲ以テ推移ヲ注視シツツアルモノナリ

即チ戰況ハ革命軍首領フランコ將軍ニヨリ着々實效ヲ奏シツツアリ若シ此ノ革命成リテ左翼政府倒壊セハ引續キ佛蘭西ニ革命ヲ誘發セシムルハ必然的テアル佛國ニハユダヤ人タルブリュム首相ニ對シテ右翼猛戰士「焰ノ十字」 Ignatz Orechov Kpecta 黨ノ領袖デリヤロツク大佐アリ續テ再ヒロシヤノ革命ニ及ホシ聽テハ我等白系露人ニモ祖國復興ノ日アルヲ信スルモノナリ

目下北滿ニ於テハ白系露人ノスペイン革命軍ニ對スル義捐金募集ノ計畫アルヤニ聞知スルモ大連ニ於テハ未タ義捐金募集等ノ動機ナク單ナル新聞報道等ニ依リ事件ノ概略

(五) 幾千ノ工場集團ハスペイン人民戰線擁護基金捻出ノ爲

月俸ノ〇、五%ヲ控除シスペイン人民戰線トノ連帶性ヲ強調スル多數ノ集會カソヴエートノ各都市ニ開催サレ何レモ一律ニスペイン人民戰線擁護基金釀出ノ爲俸給控除カ決議サレツツアリ

七、駐哈ソ聯領事館ノスペイン人民戰線支援義捐金募集計畫駐哈ソ聯領事館ニ於テハトリピンスキー副領事クラシンスキー秘書ヲ中心ニ西班牙人民戰線援助資金トシテ在哈ソ聯居留民ヨリ寄附金募集計畫中ナルカ先ツ具體案トシテ領事館員其他從業員ノ俸給中ヨリ一定率ヲ控除及ソ聯旅券書替料ノ値上等ノ方法ニ依リ募集スル筈ナリ

尙本件ニ關シ八月七日午後七時ヨリ全ソ共產黨「ヤチエカ」ニ屬スル館員約二十名集合館員エル・ア・パウロフ、オ・エス・フェオドトフノ兩名ハ西班牙動亂ノ最近ノ情況説明シ宜シク全世界プロレタリア側ヨリ人民戰線擁護ノ必要ヲ強調シ同會合ニ於テ在滿全ソ聯人ヨリ西班牙政府軍援助金募集ヲ行フコトニ意見一致シリユチュワ、フェオドトフ及ルイスコフノ三名ヲ實行委員ニ擧ゲタリト云フ

以上

122

昭和11年8月29日 有田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛(電報)

マドリッドは無政府状態との報道に対し同地の
実状ならびにスペイン政府の現状および同
政府との接触の可否等回電方訓令

本省 8月29日後3時50分発

第二〇〇號

西へ轉電アリタシ

「マドリッド」ノ状況ニ關シ「ロイテル」通信其他ニ依リ
虐殺、放火等相當大袈裟ニ報道セラレ恰モ無政府状態ヲ現
出シツ、アル様傳ヘラレ居ル處、貴地ノ實情電報相成度ク
又現在政府ハ如何ナル状態ニ在ルヤ政府トノ接觸可能ナリ
ヤ等ノ點ニ關シテモ當方ニ於テ承知シ置ク必要アルニ付同
電アリタシ

123

昭和11年9月2日 在スペイン矢野公使より
有田外務大臣宛(電報)

外交団會議において人道問題等外交団全てが

パリ 9月2日後発
本省 9月2日夜着

合第二一五號

西發本使宛電報

號外四三(至急)

外務大臣及矢野公使ニ轉電アリタシ

本官發矢野公使宛電報

第四一號

一日外交團會合ニ於テ在「エンダヤ」亞爾然丁大使ハ正式
外交團長トシテ貴地方ニ於ケル大使中ノ有志者ト協同シ
テ非戦闘員等ノ虐殺其ノ他苛酷ナル取扱ニ鑑ミ(佛宛號外
四二ノ四ノ未段)政府及叛軍ニ對シ叛亂ノ人道化ヲ提議セ
ントスル趣ナルニ依リ當地外交團モ右提議ニ参加スヘキヤ
否ヤニ付協議セラレタル處右ハ叛軍トノ接觸關係ノ點ニ於
テ國際法上問題化スヘク卑見トシテハ加入セサルヲ適當ト
存スルモ何分ノ儀大至急御電訓請フ(本件ハ一兩日中ニ再
協議セラルル筈)
又貴公使ニ於テハ本件ニ關シ貴地方ニ於ケル他館長ト協議
相成リ居ルヤ併テ御回電請フ因ニ英米代表ハ不加入ノ趣ナ

関与せざるを得ない問題が浮上した際の我が
方対応振りにつき請訓

サンジャンドリユーズ 9月2日後発
本省 9月3日後着

第八五號

往電第八四號ニ關シ

外交團會議ノ際武器禁輸其ノ他我方ニ直接關係ナキ問題ニ
付テハ不關與ノ態度ヲ執ルヘキモ人道問題ニ付テハ在當地
外交團カ全部關與スル場合我方モ主義上之ニ贊同セサルヲ
得サルヘク但シ仲介ノ爲何等積極的措施(委員會ノ構成等)
ヲ執ルニ至ル場合ハ改メテ請訓ノコトト致度キ處本使ノ心
得至急御回訓請フ

124

昭和11年9月2日 在仏国佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

非戦闘員の虐殺等阻止のため政府および叛乱
軍と交渉すべきとの外交団の動きには参加す
べきではない旨在スペイン公使館員意見申

リ

125

昭和11年9月6日 在スペイン矢野公使より
有田外務大臣宛(電報)

在スペイン各国外交団より内乱の今後の展開
見通し聴取について

サンジャンドリユーズ 9月6日後発
本省 9月6日後着

第九三號(極秘)

當地外交團ハ大體戦局ハ必スシモ政府側ニ有利トハ觀居ラ
サルモノノ如キ處主ナル意見左ノ通
米大使ハ叛軍側カ兵數少ク無國籍兵及「モロツコ」兵等闘
志薄弱ナル分子ヲ混ヘ居ルニ反シ政府側民兵ハ一般下層階
級生死ノ問題トシテ奮闘シ居リ意外ノ實力ヲ有スルヲ以テ
時局ハ容易ニ叛軍ニ有利ニ落着セサルヘシト爲シ佛大使ハ
叛軍一時勝利ヲ得ルコトアルヘキモ問題ハ軍事的、政治的
ヨリモ經濟的ニシテ戦後ノ事態收拾ニ困難ヲ來シ却テ民衆
運動ヲ激化セシムヘシト爲シ佛人中政府軍ニ同情ヲ有スル
者アルヘキモ同情ト國策トハ別物ナリ列國ハ此ノ際單獨行

付記 八月二十六日、在本邦スペイン公使より外務次官へ手交

右声明文

本省 9月11日後5時35分発

第二一五號

西へ轉電アリタシ

第二〇號

在本邦西國公使「デ・ヴィグ」ハ八月二十六日聲明書ヲ發シ「モリナ」參事官、在神戸西國領事ト共ニ爾今「マドリッド」政府ト斷絶シ革命軍政府ヲ支持スヘキ旨ヲ明ニスルト共ニ同日堀内次官ヲ來訪シ聲明文ヲ手交シタルガ同公使ハ九月十日横濱出帆ノ淺間丸ニテ歸途ニ就ケリ
佛ヨリ矢野公使へ轉電アリタシ

(付記)

COMMUNIQUE TO THE PRESS

The Spanish Minister, the Counsellor of the Spanish Legation in Tokio and the Spanish Consul in Kobe,

動ヲ避ケ相互ニ聯絡ヲ執リ西國ノ動亂カ他國ニ波及セサル様(脱?)全般ノ意嚮ヲ支持スヘキナリトシ
伊大使ハ形勢ハ叛軍ニ有利ニ展開シツツアリトシ佛カ「イルン」方面ニテ積極的ニ政府軍ヲ援助シツツアル事實ヲ指摘シ西國ハ目下左右何レカ極端ニ走ラントシツツアルヲ以テ列國ハ協力シテ之ヲ中道ニ戻ス爲援助スルヲ要スト爲シ又英ノ態度ハ消極的ナルカ右ハ西國內亂ノ波及ニ依リ自國民衆運動ノ激發ヲ惧ルルモ其ノ政體ニ鑑ミ人民ノ正當代表タル西國現政府ニ好意ヲ寄せサルヲ得サル立場ニアル爲ナリト言ヒ白大使ハ内亂ハ直接歐洲ニ波及スルコトナカルヘキモ政府側民兵勝ツ場合西國ノ赤化ハ免レサルヘク右ハ佛ノ民衆運動ヲ刺戟シ獨、伊ノ干涉ヲ招來シ延イテ世界ヲ混亂ニ陥ルル惧アリト爲シ居レリ
在歐米各大使(土ヲ除ク)へ暗送セリ

126

昭和11年9月11日 有田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛(電報)

在本邦スペイン公使より叛乱軍政府を支持する旨の声明文手交に付

(欄外記入一) hereby declare that, although without more news than those published by the press, based on innermost conviction, they have from July of this year broken all relations with the Government of Madrid; they are absolutely identified with the movement which is led by the

(欄外記入二) Generals Franco, Cabanellas and Mola, men of a dignified and patriotic history who all through their life, have not maintained other ideal than the welfare and glory of Spain. It is therefore undeniable that their idealism, which we all good Spanish share, could not possibly stay indifferent against the regrettable policy developed by the Government of Madrid which drove Spain into real chaos, owing to the present struggle, between the anarchy backed by the communism on one hand, and civilization, order and respect towards the most sacred rights of humanity on the other.

humanity on the other.

(欄外記入一)

昭和十一年八月二十六日西公使メレデス、デ、ヴィゴウ參事官

付記 八月二十六日、在本邦スペイン公使より外務次官へ手交

右声明文

本省 9月11日後5時35分発

第二一五號

西へ轉電アリタシ

第二〇號

在本邦西國公使「デ・ヴィグ」ハ八月二十六日聲明書ヲ發シ「モリナ」參事官、在神戸西國領事ト共ニ爾今「マドリッド」政府ト斷絶シ革命軍政府ヲ支持スヘキ旨ヲ明ニスルト共ニ同日堀内次官ヲ來訪シ聲明文ヲ手交シタルガ同公使ハ九月十日横濱出帆ノ淺間丸ニテ歸途ニ就ケリ
佛ヨリ矢野公使へ轉電アリタシ

(付記)

COMMUNIQUE TO THE PRESS

The Spanish Minister, the Counsellor of the Spanish Legation in Tokio and the Spanish Consul in Kobe,

モリナ同伴來訪之ヲ手交ス

唯通告スルノミニテ何等要求スル事ナシト附加セリ

(欄外記入二)

二十六日午後外國新聞記者ヨリ質問アリ應答ス

~~~~~

127

昭和11年9月16日 在仏国佐藤大使より  
有田外務大臣宛(電報)

新ソ連大使着任以来スペイン国内新聞にはソ連關係記事および我が國への批判的記事が増加している旨在スペイン公使館員報告

パリ 9月16日後発  
本省 9月17日前着

合第二三七號

西發本使宛電報

號外五九

大臣及矢野公使へ轉電アリタシ

往電號外四一二關シ

蘇聯邦大使信任狀捧呈ニ際シ大統領ハ同大使ノ接受ヲ光榮且満足ナリトシ西露文化接近ノ希望ヲ述ヘタル趣ノ處同大

使ハ政治及軍事的ニ活動中ノ如ク今次政變モ蘇聯邦ノ西國援助ノ一條件トモ見ラレ「カタルニア」ノ赤化分子ハ當地ニ殺到シツツアルカ目下新聞ハ國內記事輻輳シ國外「ニュース」甚タ少キニ拘ラス莫斯科電報ハ多大ノ紙面ヲ割キ寫眞入ニテ蘇聯邦ノ空陸軍ノ充實、重工業ノ發達等ヲ報道シ同國ノ強力ヲ宣傳シ又滿洲國ニ於テ蘇聯邦市民カ理由ナクシテ日滿軍隊ニ依リ捕縛セラレ苛酷ナル取扱ヲ受ケ北支ニ於テ白系露人ハ日本軍ノ虐待ノ爲他ニ移動シ北鮮ニ於ケル日本軍ト赤化鮮人ノ衝突等報セラレ

佛國民ノ西班牙政府ニ對スル同情及獨、伊ノ反西記事アルモ葡萄牙ニ對シテハ接壤關係ノ爲カ餘リ露骨ナル記事ヲ見受ケス

128

昭和11年9月21日  
在スペイン矢野公使より  
有田外務大臣宛

仏國在住駐スペイン外交団にはマドリッド在住  
住外交団と同等の権利を認めないとのスペイ  
ン政府通知について

機密號外第一一號

(10月24日接受)

訓シ次回會合ニテ再協議ノコト、セリ

ニ十八日外交團再會合シ(前記各國ノ外羅馬尼参加ス)各國代表ノ大部分ヨリ此ノ際特ニ「マドリット」ニ帰還ノ必要ナシトノ回訓ヲ受ケタル旨報告シ此ノ儘差シ當リ此ノ地方ニ止マルヘキヤ否ヤニ付テハ各代表共止ルコト、スル旨ヲ答ヘ次ニ西國政府通告ニ對シ回答スヘキヤ否ヤニ關シテハ諾威及和蘭ノ代表ヨリ此ノ際單ニ馬德里ニ帰還スルヲ不便トスル理由ヲ述ヘ立テタル別添乙號案<sup>(省略)</sup>ノ如キ回答振ニテハ如何ト提議アリタルガ右ハ其ノ内容餘リニ露骨ニ過クルノ感アリ賛成ヲ得ス結局亞、米、伊、其他ノ代表ハ此ノ際本件ニ關シ外交官ノ權利云々ノ法律問題ヲ提起シテ西國政府ト争フハ事態ヲ紛糾セシムルヲ懼アリ且「マドリット」政府ガ曩ニ外交團ノ佛國側在住ヲ容認シ連絡員サヘ特設セルニ今俄ニ斯ル通告ヲ為スハ了解シ得ス或ハ同政府ハ明日ニモ其ノ態度ヲ變更スルヤモ知レス旁々本件通告ハ此ノ儘黙殺シ回答セサル方得策ナリト述ヘ一同之ニ同意セルガ其ノ際回答ヲ為サ、ルトキハ先方通告ヲ容認シタルコト、ナル懼ナキヤトノ議論ニ對シ各國代表共沈黙ハ先方ノ意見ニ同意スルモノニ非スト

昭和十一年九月二十一日

在西

特命全權公使 矢野 眞(印)

外務大臣 有田 八郎殿

西國政府ノ佛國側在住外交團否認ニ關スル件

本件ニ關シテハ既電報告ノ通りナルガ其ノ経緯左ノ通り追報ス

一、西國政府ハ曩ニ「サン、ジャン、ド、リューズ」方面在住駐西外交團ニ對スル連絡員トシテ元同國大使「アメリカ、カストロ」ナル者ヲ任命セル處同連絡員ヨリ九月十二日附別添甲號寫書翰<sup>(省略)</sup>ヲ以テ西國政府ハ佛國內ニ在住スル西國駐在外國使館長ニ對シ「マドリッド」在住外交團ノミニ該當スル權利ヲ認ムルコトヲ得サル旨ノ外務大臣來電ヲ傳達越シ尚右ニテ同連絡員ノ任務モ終了セル旨通告アリタルヲ以テ同日「サン、ジャン、ド、リューズ」方面在住外交團全部(亞爾然丁、英、米、佛、伊、白、和蘭、諾威、瑞典、ヴェネスエラ、チェコ、芬蘭、日)主席亞國大使ノ招請ニ依リ會合シ協議ノ結果本件西國政府ノ通告ニ對スル各國ノ態度決定ノ為夫々本國政府ニ請

云フニ一致セリ

三、本件ハ西國政府ニ於テ「マドリット」ノ情況ニ顧ミ同地外交團中「アリカント」又ハ「サン、ジャン、ド、リューズ」方面ニ移轉スル者續出シ(其ノ後埃及ハ「アリカント」ニ羅馬尼及「グワテマラ」ハ「サン、ジャン、ド、リューズ」方面ニ移轉セリ)漸次同地外交團ノ數ヲ減シツ、アルヲ快シトセス又「サン、ジャン、ド、リューズ」外交團ガ西國政府圈内ヲ離レテ獨自ノ見解ニ依リ行動スルヲ得場合ニ依リ叛軍側トモ連絡シ得ル地位ニアルヲ厭ヒ且最近ノ政變ニ依リ政府ノ極左的傾向益々顯著トナリ國際信用維持上又ハ叛軍ノ「マドリット」攻撃ニ對スル軍略上ノ必要ヨリ外交團ノ同地在留ヲ希望シ茲ニ本件通告ノ措置ニ出テ外交團ニ對シ同市帰還方暗ニ強要セルモノナルヤニ認メラレ居ル處現下ノ情勢ヲ以テシテハ「マドリット」ヘノ帰還ハ茲數週以内ニ何等カ時局ニ一大變轉ヲ豫想セラル、折柄徒ラニ政治的反響ヲ惹起スル懼アルノミナラス「マドリット」ノ現狀上安全ノ保障充分ナラス交通及通信ノ自由モ完全ヲ期シ難ク時局ノ大觀ニ不便ニテ自然政府側情報ノミニ左右セラレ或ハ外交

團ガ政府ニ利用セラル、ニ至ル惧ナキヲ保シ難カルヘク  
(註) 右ハ佛國側在住外交團ヲシテ現狀維持ノ態度ヲ採ラ  
シムルニ至リタル所以ト思考セラル

(註) 最近ノ智利大使ノ「トレド」籠城婦女子救出運動  
(高岡往電参照) ハ籠城軍側ヨリ一切ノ交渉ハ「ブルゴ  
ス」叛軍政府ヲ經テ為サレ度シトテ拒絶セラレ失敗セル  
ガ「トレド」ノ爭奪ハ「マドリット」ノ運命ヲ左右スル  
ニ至ルヘキ重大ナル關係ニアリ旁々同大使ハ政府軍ノ籠  
城叛軍攻撃ヲ容易ナラシメントノ底意ヲ有スル政府ヨリ  
利用サレタル傾アリトノ説當地外交團中ニ專ナリ

四、「サン、ジャン、ド、リユーズ」方面外交團中ニハ「マ  
ドリット」ニ正式代理ヲ有スル國(亜、佛、白、英、米、  
等)館員ノミヲ有スル國(本邦等)及全部移轉セル國トア  
リ「マドリット」ニ代理ヲ有スル國ニ對シテハ本件ハ實  
際上何等問題トナラサルヘク又我方ノ如ク館員ノミヲ有  
スル國モ現在ノ所差シタル支障ナク只將來西國政府ノ我  
「マドリット」館員ニ對スル取扱振如何ハ内々注意ヲ要  
スヘシ

尚今回ノ如キ場合外交官ガ一時任國以外ニ在ル時同外交

ハ各多數ノ庇護者アル由ナルカ叛軍侵入ノ場合入獄者ハ恐  
ラク殺戮セラルヘク目下憲法法律モ事實上停止同然トモ言  
フヘク生命財産ノ保障ナク各派委員會又ハ民兵等カ單ニ階  
級的敵愾又ハ復讐心ヨリ殘忍行爲ヲ爲ス現狀(叛軍側モ同  
様ナルヘキモ)ナル限り國際法上ノ庇護權有無等ノ如キ生  
優シキ域ヲ超越シタル實ニ人道及人情上ノ大問題ナリ一刻  
ヲ爭フ生死ニ直面シタル眞劍ナル庇護申出ニ對シテハ本官  
モ心中誠ニ忍ビ得サルモノアリ身ヲ以テモ庇護シ度キ義心  
ニ燃エ之ヲ拒絶スルノ甚タシキ苦境ニ立ツコト一再ニ止マ  
ラス叛軍侵入セハ政府派ノ人士ト雖庇護方申出ツル場合ナ  
シトセス人道上右翼、左翼モナク一視同仁ナルヘキカ本官  
ハ敢テ庇護ヲ主張スル次第ナラサルモ今次叛亂ニ於ケル政  
府及叛軍共戰勝ノ唯一目的ノ爲ニハ手段ヲ選ハサル措置ニ  
付テハ國內事項トハ申セ誠ニ遺憾ト存ス

130

昭和11年10月5日

有田外務大臣より  
在仏國佐藤大使宛(電報)

在スペイン我が方公使館は引揚げが望ましく  
再应考虑方訓令

官ノ地位又ハ權限ニ及ボス影響如何ノ点ニ付何等カ本省  
ニ於テ御研究ノ結果モアラバ本使含迄ニ御指示相仰キ度  
右報告旁々申進ス

本信寫送付先在佛大使

129

昭和11年9月29日

在仏國佐藤大使より  
有田外務大臣宛(電報)

一般市民への殺戮増加の現状に鑑み我が方公  
使館に保護を申出る者に対しては同情的態度  
をとるべき旨在スペイン公使館員意見具申

パリ 9月29日後発  
本省 9月30日前着

合第二五六號

西發本使宛電報

第七六號

矢野公使及外務大臣へ左ノ通り轉電アリ度シ

叛軍接近ト共ニ勞働者、無產者ノ獨裁益々強化セラレ投獄  
殺戮一層徹底的トナリ事件後殺戮萬餘ニ上リ最近婦女子ヲ  
モ含ム趣ノ處當館ニ對シ庇護申出數件アリ若干大公使館ニ

本省 10月5日後6時50分発

第二三八號(至急)

西へ轉電アリタシ第二二號

貴電第一八號ニ關シ

往電第二二號接到ノ上殘留ノ決定セラレタル事ト想像セ  
ラル、處我方トシテハ貴官殘留カ反テ復雜ナル問題ヲ惹起  
スル場合ヲ懸念シ引上ケラ命ジタル次第ナルカ冒頭貴電御  
申越ノ臨時事務所ニ移轉スル場合生命ノ危險ナク且庇護等  
ニ關シ面倒ナル問題ヲ惹起スル懸念ナシトノ御見込ナルニ  
於テハ移轉差支ヘナキモ危險ヲ冒シ貴地ニ殘留セラル、必  
要ナキ次第ナルヲ以テ再應考慮ノ上決定セラレ至急回電ア  
リタシ

佛ヨリ矢野公使へ轉電アリタシ

131

昭和11年10月5日

在仏國佐藤大使より  
有田外務大臣宛(電報)

各国公使館の多くがスペイン人を保護して  
いる状況につき在スペイン公使館員報告

パリ 10月5日後発  
本省 10月6日前着

合第二七三號(極秘)

西發本使宛電報

第八三號

左ノ通り外務大臣及矢野公使へ轉電アリタシ

本官發佛宛電報第七六號ニ關シ

外交團員トノ私的内話ヲ綜合スルニ西班牙系ハ勿論歐洲大  
公使館ノ殆ト大部分ハ西班牙人庇護者各數名乃至數十名ア  
リ智利、玖馬等ノ如キ各百餘名ニ達シ皆無ナルハ恐ラク日  
本、米國(佛宛往電號外一五御參照)等位ナラント言フ英國  
モ少數アル如シ

最近團員間ニハ相互ニ庇護者ヲ紹介シ合ヒ居リ玖馬、和  
蘭、墨西哥等ハ別ニ公館ヲ臨時増置シ又「ボリビヤ」等ハ  
移轉シテ收容シ居ル模様ナルカ當館ニ對シテモ毎日申出ア  
ル實狀ナリ外交團員カ避難シ得サル理由ハ各立場モアルコ  
ト乍ラ庇護者アルコト一因ナリ

外交團ノ建前トシテハ目下法律上生命ノ保障ナキニ際シ獨  
リ外交團ノミノ庇護カ唯一ノ保障ナルヲ以テ人道ノ命スル

本信寫送付先 在歐米各大使

(別紙)

(昭和十一年十月二十七日調)

第一 大公使館庇護權問題

一、今回西國內亂勃發スルヤ馬德里ニテハ反對分子ノ極端ナ  
ル彈壓ニ努メ頗ル殘酷ノ措置ニ出テツ、アルノミナラズ  
左翼勞働者及無產階級ヲ武装シテ叛軍ニ對抗セシメタル  
結果是等民兵亦暴威ヲ振ヒ不羈橫行、反動分子ノ迫害ヲ  
擅ニシ無辜ノ民又不測ノ危難ニ瀕スルニ至レリ之カ爲馬  
德里ニ於テハ多數西國人此ノ迫害危難ヨリ逃ル、爲外國  
大公使館ニ庇護ヲ求メ我公使館及米大使館(註一)ヲ除ク  
其ノ他ノ公館(註二)ニテハ已ムヲ得ス自國民ノ外是等避  
難西國人ヲ收容庇護シ(註三)中ニモ南米諸國ノ大公使館  
ハ最も多數ノ庇護者ヲ擁シ之カ爲從來屢々民兵ノ大公使  
館侵犯問題等ヲ惹起セルガ最近叛軍ノ首府接近ト共ニ同  
地ノ形勢益險惡トナリ是等庇護者ヲ有スル大公使館ハ其  
ノ處置ニ窮シ引揚困難トナレルノミナラズ政府軍敗退ノ  
場合赤化政府及極左民兵報復的ニ庇護者ノ迫害ヲ行ハン

最高ノ使命ナリト言フニアリ

西班牙政府ニ對シテハ團長ヨリ累次申出テタル結果政府ノ  
取締リ得サル場合多キニ鑑ミ庇護團員ノ實驗ニ依レハ事件  
直接關係人物ニアラサル限り殆ト默視的態度ノ如シト言フ  
尙旅券ヲ發給シ保護シ居ルハ佛宛往電第六九號ノ通り

132 昭和11年10月30日 在スペイン矢野公使より  
有田外務大臣宛

各国大公使館によるスペイン人保護の困難化  
および政府に捕われた捕虜救出問題への外交  
団関与につき報告

機密第一三九號 (11月24日接受)

昭和十一年十月三十日

在西

特命全權公使 矢野 眞(印)

外務大臣 有田 八郎殿

西國內亂ニ關聯シ大公使館庇護權問題並在馬德里

捕虜救出問題ニ關スル件

本件ニ關シ何等御參考迄別紙ノ通り報告ス

ガ爲急ニ大公使館侵犯ノ舉ニ出ツルコトナキヲ保シ難ク  
館自体ノ安全モ脅威ヲ受クル虞アルニ至レル模様ナリ

(註一)

當地米國大使ノ談ニ依レバ米國ハ後掲「一八八九」  
年ノ所謂「モンテヴィデオ」協定ニ參加シ居ラス此  
ノ種庇護權ヲ常ニ否認シ來リ今回内亂勃發當初馬德  
里ノ米國代理ハ本國政府ヨリ庇護ス可ラサル旨訓令  
ヲ受ケタル由ナルガ本使モ高岡書記官ノ問合ハセニ  
對シ馬德里帝國公使館ニハ本使不在ニテモアリ事實  
上庇護困難ニ付拒絶ノ方針ヲ執ル様指令ヲ發シ置ケ  
ルハ御承知ノ通ナリ

(註二)

英佛大使ノ内話ニ依レバ英國大使館ハ現在庇護者ヲ  
有セズ又佛國ハ大使館内ノ庇護ヲ避ケ「マドリッ  
ド」ニ在ル同國學校内ニ之ヲ收容シ居ル由又葡、  
獨、伊ハ最初庇護者ヲ有セルモ「アリカンテ」ニ移  
轉ノ際之ヲ他公館ニ移セリ

(註三)

日米及前記英佛等ヲ除キ他ノ諸國ハ支那ニ至ルマデ

多少ノ庇護者ヲ有シ時局切迫ト共ニ多大ノ困難ニ達  
着シ居ル模様ナリ

ニ、南米諸國ハ一八八九年「モンテヴィデオ」ニ於テ大公使館ノ庇護權ヲ協定シ爾來羅典亜米利加諸國間ノ國際法ノ一部トモ看做サレ來リ(註四)(註五)今回南米大公使館ハ西國政府ニ對シ右協定ニ定ムル庇護權ヲ援用シ自館内庇護者ノ安全保障ヲ要求セルニ對シ西國政府ハ『外國公館内ノ政治避難者ノ庇護ヲ默認スルコトアルモ西國ハ庇護權ニ関スル「モンテヴィデオ」協定ニ署名シ居ラザルノミナラス之ガ濫用ハ許シ難ク殊ニ一般政治革命ト異リ今回ノ如キ軍隊叛亂ノ場合ニハ一般庇護權ハ適用サレズ』トノ見解ヲ持シ來レル模様ナリシ處十月十三日外務大臣ハ公文ヲ以テ在「マドリッド」外交團ニ對シ大公使館ノ庇護權ヲ認メサル旨通知シ來レル爲十五日外交團會合ニ於テ協議ノ上直接大統領ニ對シ陳情スルコト、ナリ大統領ハ外交團ノ申出ヲ諒トシ庇護ヲ默視シテモ可ナルヤノ意向ヲ漏ラシタル由ナルモ此ノ間當局ハ庇護者ノ有無調査ノ爲在「マドリッド」大公使館及領事館全部ノ搜查ヲ發令セルヤニテ關係大公使館ノ不安益々増大スルニ至レ

ス」ニ於テ亜國政府ノ招請ニ依リ同國駐在中南米十四ヶ國代表者(ボリビア、伯、智、「コロンビア」、玖瑪、「エクワドル」、墨西哥、「ニカラガ」、巴奈馬、「パラガイ」、秘露、「サンドミンゴ」、「ウルガイ」、「ヴェネスエラ」)會合シ本件ニ関スル關係各國ノ態度ニ付協議セルガ其ノ結果各國ハ夫々西國政府ニ對シ庇護權ノ確認方交渉スルコト、ナリ亜國政府ハ電報ヲ以テ西國外務大臣ニ對シ「庇護權ハ國際會議ニ於テ既ニ認メラレタル權利ニシテ特ニ中南米諸國ハ何レモ之ヲ尊重シ現ニ西國ハ曾テ自國大公使館内ノミナラス軍艦内ニテモ之ヲ行使セリ西國政府カ曩ニ公文ヲ以テ庇護者ノ引渡ヲ要求セサルコトヲ承諾シ又特ニ大公使館警護ノ爲衛兵ヲ配置セルハ即チ右庇護權ヲ承認セルモノニシテ右ハ「既成事實」ヲ構成スルモノナリ斯ノ如ク一旦承認セラレタル權利ニ對スル何等ノ侵害ハ或ハ亜西兩國ノ外交關係ニ影響ヲ及ボスコトアルヘク此ノ庇護ノ權利及既成事實ノ變更ハ現在大公使館内ニ避難セル被庇護者カ豫メ安全ノ保障ヲ享ケテ退去セル後ニ非レバ之ヲ實行シ得ザルモノニシテ右ハ法ノ第一義的觀念ニ徴スルモ當然ナリ云々」ノ趣旨ノ通告

リ

(註四)

當地「ウルガイ」公使ハ『本協定ノ庇護ハ被庇護者ヲ大公使館内ニ滞留セシムルヨリモ速ニ他ノ安全地帶ニ移スヲ本旨トス即チ被保護者ヲ當該政府ニ通告シ之ヲ最寄リノ港迄護送ノ上適當船舶ニテ國外ニ救出スルヲ得セシムルニ在リ「モンテヴィデオ」、「ブエノスアイレス」等皆海岸ニ瀕スルニ見テ明ナルベシ然ルニ馬德里ハ國ノ中央ニアリテ港ヲ去ルコト遠ク前記ノ意味ノ庇護ヲ爲スコト困難ニシテ結局永ク大公使館内ニ止メ保護ヲ加フルノ止ムヲ得サルニ至リ「モンテヴィデオ」協定當時ノ趣旨ト相去ルコトトナル』ト云ヒ米國大使ハ今回馬德里ノ庇護振ハ言語同斷ニシテ「庇護ニ非ズ陰匿ナリ」ト批評シ居タリ

(註五)

是等ノ點ニ付避難中參考資料持チ合ハセサル爲追テ研究ノ上追報スルコト致シ度

三、新聞電報ニ據レバ十月十九日ヨリ「ブエノス、アイレ

ヲ爲シ智利政府ヨリモ西國外務大臣ニ宛テ同様趣旨ノ長文ノ電報ヲ發セル趣ナルガ只墨國政府ハ西國政府ニ直接ノ交渉ヲ避ケ在西自國大使ニ對シ適當ノ形式ノ下ニ西國政府ニ被庇護者ノ氏名ヲ通告シ同政府ガ必要ナル保障ヲ與フル場合ハ之ヲ西國領土外ニ退去セシムル様措置方訓令セル趣ナリ

「ゼネバ」ヨリ歸途巴里滯留ノ際(十月二十五日)亜國外務大臣ハ本件ニ関スル西國政府ノ回答取付ノ爲在同地西國大使ト交渉ノ結果西國政府ハ現在馬德里ノ外國公館内ノ被庇護者中婦人子供ノミニ對シ國外退去ヲ承諾シ亜國側ニ於テモ之ヲ諒トセル趣ナルガ當地亜國大使ハ本使ニ對シ實際問題トシテ交通方法ノ缺如セル「マドリッド」ノ現狀ニ顧ミ右婦人子供ノ救出ハ頗ル危險ニシテ殆ト不可能ト思考セラルルノミナラス右ハ男子ノミハ危險ニ曝スモ可ナルコトヲ承認スルニ等シク庇護權ノ一部放棄トモ見ルヲ得ベク自分トシテハ贊成セサルモ外務大臣自ラ諒承セル處ナル故今更如何トモ致シ難シト述べ居タリ尚、在「マドリッド」外交團ニ於テハ曩ニ大公使館自衛ノ爲「マドリッド」市ニ國際区域ヲ設ケ同区域内ニ集合移

轉説問題トナレルガ最近「マドリッド」ノ形勢險惡ヲ加フルト共ニ同問題再燃セルヤニ傳ヘラレ居レリ

## 第二 馬德里政府側捕虜ノ救出問題

現在馬德里市内ニ政府側ノ有スル捕虜ハ少ク共其ノ數七千(伊太利大使ハ一萬二千ト稱ス)ニ達シ中婦人約一千五百名ノ由ナルトコロ此等捕虜ハ何レモ民兵ノ手中ニ在ル爲何等生命安全ノ保障ナク殊ニ最近「マドリッド」ノ形勢益々險惡トナルニ連レ此等捕虜ハ愈々悲觀スベキ運命ニ在ル爲英國政府ハ人道上ノ見地ヨリ是等捕虜ノ救出ヲ試ミントシ在西同國代理大使ヲシテ是等捕虜ト叛軍側捕虜トノ交換方西國政府ニ申出テシメタル趣ニテ同代理ハ佛國側トモ協力シ折角努力中ナリシ處十月二十五日馬德里發新聞電報ニ依レバ馬德里政府ハ英國代理大使宛公文ヲ以テ「現在馬德里ニハ保障捕虜ト稱スベキモノ一名モナク同地刑務所ニ監禁中ノ政治犯人ハ何レモ今回叛亂ニ直接関與セル者又ハ共和國ニ有害ナル者若ハ共和制ノ敵ト特種關係ヲ有スル者ナリ是等ノ釋放ハ西國ノ現狀ニ顧ミ叛亂ヲ援助スルニ等シク國家ニ對シ頗ル危險ナリ」トテ之ヲ拒絕シ叛軍側ガ獨伊ヨリ多スノ武器供給ヲ受ケ居ルニ反シ人民ノ自由意志ニ依リ成立

日)他方此等ノ外交交渉ニ拘泥セス當地佛國大使カ叛軍側ノ「サンセバスチアン」奪取當日(九月五日)迄當初ハ自動車後ハ佛國軍艦ニテ連日同地ニ赴キ佛國人ハ勿論多數ノ西國人ヲ佛國ニ避難セシメタルハ注目ニ値シ尚叛軍「ビルバオ」方面攻撃ニ移ルヤ曩ニ「サンセバスチアン」方面ヨリ同地ニ連行セラレタル捕虜中婦人子供等萬國赤十字委員ノ盡力ニ依リ「ビルバオ」政府軍ヨリ釋放セラレ英國軍艦ニ依リ當地迄運ハレ來レルハ一部ノ成功ト云フベシ

(終)

133

昭和11年11月11日

在独國武者小路大使より  
有田外務大臣宛(電報)

独伊兩國による叛亂軍政府承認は予想以上に  
早い見込みにつき我が方も米英仏等に遅れる  
ことなく早期に承認すべき旨意見具申

第二五八號(極秘)

貴大臣發西宛電報第一三號ニ關シ

ベルリン 11月11日發  
本省 11月12日着

セル正當政府ハ却テ孤立無援ノ狀態ニアリ此ノ悲シムベキ事態匡正ノ爲盡力セラレ以テ人道ニ貢獻アラムコトヲ希望スト述ベタル趣ナルカ當地米國大使ハ本使ニ對シ英代理大使ノ申出ニ係ル捕虜ノ交換ハ叛軍側ガ何等交換ノ代償ヲ有セサルニ顧ミ實行不可能ニシテ馬德里政府ノ回答振ハ至極尤ト思考スト語レリ尚本件ニ関シ佛國大使ハ馬德里外務大臣ヨリ是等捕虜ヲ馬德里外ノ安全地帯ニ移轉セシムル意嚮ナル旨回答アリタルカ七千人ノ捕虜ヲ之ノ際他ノ安全地帯ニ移轉セシムルカ如キハ云フヘクシテ行ヒ得サル處ナルノミナラス却テ危險ナリ彼等ノ安全ヲ望ミ得ヘキ唯一ノ方法ハ叛軍カ時ヲ遷サス短時間ノ攻撃ヲ以テ早急ニ馬德里市ヲ奪取シ政府側ヲシテ此等捕虜虐殺ノ餘裕ナカラシムルヨリ外アルヘカラスト内話セリ

曩ニ「サンデヤンドリユーズ」外交團ニ於テ人道上ノ見地ヨリ捕虜交換等ノ點ニ付叛政面軍ノ仲介ヲ爲サムトシテ西國政府ノ拒絕ニ逢ヒ問題立消エトナリ(九月初旬)馬德里ニテハ智利大使ニ於テ叛軍ト共ニ「トレド」立籠レル婦人子供ノ救出ニ乗り出シ叛軍側ヨリ「ブルゴス」政府ニ交渉方返答ヲ受ケテ其ノ儘トナリタルカ(九月十三

十日外務次官ト會談ノ際西國新政府承認問題ニ對スル獨逸ノ態度ヲ尋ネタルニ同次官ハ獨逸トシテハ國民軍カ馬德里ヲ占領シ内閣ノ組織就中外相ノ任命ヲ了スルニ於テハ直ニ之ヲ承認スル意嚮ニテ伊國政府ノ態度亦同様ナルヘシト答ヘタルカ一方當地ニアル馬德里政府任命ノ代理大使ハ九日突如伯林ヨリ逃亡シ曩ニ辭任セル儘大使館内ニ小サクナリ居タル國民軍系ノ舊大使ハ直ニ其ノ職務ニ就キタリ彼此綜合スルニ獨伊ノ新政府承認ハ或ハ存外速ニ行ハルモノカト想像セラルル上英佛政府ニ於テモ事實上ハ直ニ「フランコ」政府トノ交渉ヲ開始スルコトナルヘク從テ我政府ニ於テモ既ニ前記貴電ノ通り英米等ヨリ遅レサル時機ニ正式承認セラルル御意嚮ナル以上進テ矢野公使發第一四二號往電意見ノ通り早目ニ承認相成ルコト大局上及對西班牙關係上將又反共産ノ我態度表明上モ必要ナルカ萬一英米佛等ノ突如承認ノコトアリテ其ノ後塵ヲ拜スル形トナルカ如キハ誠ニ面白カラスト存シ敢テ私見申進ス

英、米、佛、伊、西、葡へ暗送セリ

134

昭和11年11月22日  
在スペイン矢野公使より  
有田外務大臣宛(電報)

日独防共協定の風説によりバルセロナにおける  
る対日感情が悪化しているとの我が方名譽領  
事報告について

サンジャンドリユーズ 11月22日後発  
本 省 11月23日前着

第一五六號

在佛大使宛往電第一五號ニ關シ

「バルセロナ」名譽領事ヨリ同地ノ赤化ニ伴ヒ殊ニ最近日  
獨防共協定ノ風説ニ刺戟セラレ對日感情頓ニ惡化ノ傾向ア  
リト内報アリ旁叛軍ノ同港爆撃(往電第一五四號)等ニ顧ミ  
我領事タルノ理由ヲ以テ(同人ハ佛國人)同地ニ頑張ル必要  
ナク此ノ際適宜避難方勸告シ置ケリ  
尙我方叛軍政府承認ノ場合同領事館ノ處置ニ關シ豫メ考慮  
シ置クラ要スヘシ

135

昭和11年11月27日  
在スペイン矢野公使より  
有田外務大臣宛(電報)

對伊關係ヲ強化シ又小國トノ聯携ニモ留意シ日獨協定ノ成  
立ニ依リ其ノ地位一層鞏固トナレルコト等ヲ擧ケ若シ獨ニ  
戰意アラハ今日ヲ以テ絶好ノ機會トスヘク「フランコ」政  
府承認問題ハ獨伊對佛蘇ノ對立ヲ激化シ「バルセロナ」封  
鎖爆撃等ノ齎スヘキ國際紛糾特ニ最近獨蘇ノ關係惡化等ニ  
顧ミレハ今日歐洲ノ事態ハ誠ニ寒心ニ堪エスト爲シ居レリ  
右ハ餘リ「アラミング」ノ見方ト思考スルモ現下歐洲政  
局觀測上何等御參考迄  
在歐米各大使へ暗送セリ

136

昭和11年11月29日  
在伊国杉村大使より  
有田外務大臣宛(電報)

スペイン内乱は独伊と仏ソの対立に發展しあ  
たかも次の欧州大戦の序幕となる觀を呈して  
きたとの伊国外相内話について

付記 十二月二十九日発在仏国孤田(康)大使館付陸  
軍武官より西尾參謀次長宛電報第九七号  
スペイン内乱現地視察報告

スペイン内乱は欧州における仏国の影響力低  
下および独国の地位強化をもたらし欧州は危  
機的狀況にあるとの各国外交団觀測について

サンジャンドリユーズ 11月27日後発  
本 省 11月28日後着

第一六一號(極秘扱)

當地外交團中比較的中立ノ立場ニアル者ノ意見ヲ綜合スル  
ニ西國內亂ヲ繞リ歐洲ノ危機日増ニ急迫シツツアリト爲シ  
其ノ理由トシテ佛ノ國內情勢ハ西國內亂前ニ比シ更ニ險惡  
ヲ極メ國際關係亦不利トナリ漸次歐洲内ノ友邦ヲ失ヒツツ  
アリ曩ニ歐洲大戦ハ獨逸カ佛國武備殊ニ銃砲不完全ナルニ  
乘シタルモノナルニ今日佛ノ軍備特ニ海空軍ハ優勢ニシテ  
英モ大戦前ノ權威ナク軍備モ向フ二年間ハ完全ヲ期シ難ク  
蘇ハ内政上弱點アリ西國內亂ニ策動スルハ之ヲ糊塗シ人心  
ヲ外ニ向ケントスルモノナルモ其ノ對外政策亦極メテ拙劣  
ナリ

ローマ 11月29日後発  
本省 11月30日前着

第一九六號

諸方面トノ接觸ヨリ得タル印象ヲ綜合スルニ西國ノ動亂ヲ  
導火線トシテ最近西地中海方面ノ形勢頗ル險惡トナリ意外  
ノ事變勃發ノ危險迫レルヤニ覺ヘラル

一地中海問題ニ關スル英伊ノ交渉ハ双方ニ接近ノ希望アレ  
ハ斷絶ノ憂ハナカルヘキモ英大使ハ二十七日交渉力再ヒ  
停頓シタル旨ヲ漏ラシ西國國民軍政府援助ニ對スル伊ノ  
眞意ニ疑惑ヲ挾ミ英ニ於テ警戒ノ要アルヲ告ケ伊外相ハ  
此ノ程英ヨリ地中海ニ於ケル海軍力制限ノ提議アリタル  
ニ對シ伊ハ英ハ必要アラハ何時ニテモ他ヨリ優力ナル艦  
隊ヲ増遣シ得ルナラスヤトテ斷然撥付ケ置キタルカ英ハ  
西國ノ動亂ニ關聯シ伊カ英ノ好意ヲ繫カントスル足許ヲ  
見テ例ノ駭引ヲ弄スト憤慨ス

ニ赤化防遏ニ付二十六日伊外相ハ自分ノ存スル限り斷シテ  
地中海ニ赤化ノ侵入ヲ許サス今ヤ西ノミナラス佛殊ニ南  
佛地方ハ共產主義ノ蹂躪スル所トナリ伊モ亦其ノ脅威ヲ  
受ク伊ニ取り事態誠ニ重大トナレリト語り

伊國王陛下モ二十六日謁見ノ際伊ハ既ニ二十數隻ノ軍艦、潜水艦、驅逐艦ヲ西國方面ニ派遣シ萬一ノ場合ニ備ヘツツアルカ赤化運動ニシテ萬一西國ニ根ヲ下サンカ之社稷ノ存亡ニ關スル一大事ナレハ舉國一致之カ防遏ニ當ラサルヘカラストノ御言葉アリ

伊外相ハ二十四日「フランコ」將軍ノ旗色近頃一向ニ振ハス憂慮ニ堪ヘストテ西國動亂ノ裏面ニ潜メル情勢ヲ語リタル後西班牙人ハ最早恃ムニ足ラス蘇聯邦ノ地中海進出ニ對シ伊ハ假令獨力ニテモ飽ク迄抗争スル決意ナリ蘇聯邦ハ其ノ後莫大ノ彈藥武器及兵員ヲ西國赤化政權ニ供給シ現ニ「バルセロナ」ノ街頭蘇聯邦ノ將校等カ自國ノ軍服ヲ着用シテ横行闊歩スルヲ見ル實狀ナレハ伊モ國民軍政府ニ對スル援助ヲ倍加シ近ク徹底の一撃ヲ加フル肚ナリ西國ノ動亂カ今ヤ獨伊對佛蘇ノ抗争トナリ恰モ次ノ歐洲大戰ノ序幕ナルヤノ觀ヲ呈スト述ヘ以上ハ蘇聯邦ニ對スル日本ノ態度ヲ知レハ特ニ腹藏ナク御話スル次第ナリト附加ス

三、英獨ノ軍擴カ未完成ナルト伊カ戰後ノ經營ニ没頭セサルヲ得サルトヨリ當分戰爭ノ危險ナシト觀察スル向アレト

カ如シ獨國ハ革命軍側ニ自己勢力ヲ完全ニ扶植スル迄徒ラニ大攻勢ヲ延引セシメアリト想ハル、節アリ一般ノ態度ハ逐次革命軍側ニ有利トナリツ、アリ

二、獨伊蘇ハ最精銳ノ飛行部隊ヲ送りアリ政府及革命軍現用機ハ百機ヲ下ラス十二月初メ獨蘇ハ鈔クモ一萬伊國亦鈔カラサル優良裝備ノ正規軍ヲ既ニ派遣シアリ政府側ヘ

(付箋)

ノ佛國義勇兵ハ二萬五千ヲ下ラス小官視察ノ戰線ニテハ敵屍体ハ寧ロ佛蘇人カ西班牙人ヨリモ多數ナリ地中海ニテハ獨國艦隊戰闘ニ從事シアルコト確實ナリ獨國ハ西班牙東部ト資源獲得ヲ約シ又之ヲ對佛控制ノ據点トシ伊國ハ「マジヨルカ」島ニ優力ナル據点ヲ占メツ、アリ今ヤ西班牙ハ獨伊ニアラスンハ蘇邦ノ屬國化シツ、アリ本内亂戰ハ其性質上徹底的ニ何レカノ掌裡ニ歸セサルヲ得サルヘク獨伊ノ施設ハ眞剣ニシテ就中獨國ノ活躍ハ外部ニテ想像ニ數倍シ表面的國際戰トナルヤ否ヤハ一ニ蘇邦態度ノ硬軟ニ依ルヘシ英國ハ一方地中海ノ現狀維持ヲ策シツ、其外交機關ハ革命軍側トモ内々交渉ヲ始メアリ列強外交機關中兩軍共ニ連絡ナキハ日本ノミ

三、日獨提携ノ今日政府軍側ハ公然日本ヲ敵視シアリ此際速

伊ノ潜水艦カ兵員又ハ武器ヲ輸送スル蘇聯邦ノ商船ヲ撃沈スルカ又ハ英佛ノ商船ニ對シ臨檢ヲ行フカ如キコトアランカ事態ノ急變ナキヲ保セスト察セラル

(付記)

秘

第九七號

西浦大尉報告

在西班牙間通信至難不着ノモノモ多ク真相報告遲延セリ十二月始新着任ノ在「サラマンカ」獨國公使ヲ動カシ再交渉ノ結果十二月二日至リ革命軍ノ態度一變シ戰場視察等モアリ歸巴セリ自己ノ見聞諜者報等綜合ノ要旨

一、「マドリッド」戰線ノ大部ハ既ニ可成堅固ナル陣地戰ノ性質ヲ帶ヒ来リ且革命軍側西班牙軍隊ノ損耗ト共ニ益々正面的力攻至難トナリ政府軍側内部崩壞又ハ獨國軍ヲ中心トスル戰略的攻勢ニ依リテノ迅速ナル戰闘ノ終末ヲ見得ヘシ革命軍當局ハ地中海封鎖ノ成果ニ望ヲ囑シアル

二革命軍ト連絡シテ反共產陣營ノ重鎮トシテノ態度ヲ明ニシ之カ利用ニ努メ又獨國カ西班牙ヲ植民地化スルニ伴ヒ將來独逸ノ直接蘇本國ニ對スル壓力ノ減殺ヲ監視スルヲ要ス

革命軍側識者ハ漸次獨國ノ野心ヲ感シ始メアリ

四、今迄戰場ニ現ハレタル蘇軍兵器中戰斗機、爆撃機共其性能獨軍ノモノヲ凌キアリ

戰車總數約百外型「テイ」二六型ニシテ自重十噸餘性能、用法共缺陷多シ但其搭載四、五糧加農ハ優良ナリ政府軍ハ警察用催淚彈ノ外未タ瓦斯ハ使用セス蘇軍指揮官ノ統帥ハ軍隊素質ノ關係モアルヘキモ依然攻勢意志徹底堅確ヲ缺キ成果見ルヘキモノナシ

五、詳細追テ報告ス

(付箋)

前回迄ノ獨伊蘇義勇兵派遣ト概ネ一致ス

唐川